

令和5年度 第3回 「知事と語る やまなしづくり」結果概要

対話テーマ:山梨で暮らし家庭を持つために望むこと

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。

今回は、県内の大学・専門学校の学生の皆様と現状や課題について意見交換を行いました。

【日時場所】 令和5年11月16日(木) 午後3時から 県庁防災新館4階401・402会議室

【対話相手】 5名

(主な意見等)

○自分自身が車の運転が苦手であり、公共交通機関が充実している都会で就職したかった。山梨で就職しようとする人が増えるためには、公共交通機関の充実が重要ではないか。

○山梨で暮らし家庭を持つためには、子育てに参加しやすく、夫婦ともに働ける環境が必要と思う。子どもの遊び場や幼稚園・保育園など預けられる場所がたくさんあるとよい。

○子育てのしやすさでは、県内企業に向けて多様な働き方や休暇制度の充実を推進していくことや、子育てをしながら働く人を受け入れる雰囲気づくりも重要だと思う。

○行政が行っている就職支援の情報を、学生に知ってもらうということが重要だと思う。対面形式とオンラインを併用して、就活イベントを行っていくことも必要ではないか。

○山梨は男女の出会いの機会がないという話をよく聞く。ただ、お見合いのような形だと参加しづらいため、自然に出会いが生まれるようなイベントがあるといいと思う。

○趣味や娯楽は大体東京に集中している。そのため、東京の近くに住まなければいけない部分がある。その結果、山梨は相対的に魅力がないことになってしまう可能性がある。

○自分は山梨にずっと住んでいるため、むしろ東京は近いなという感覚がある。特急で2時間程度で行けるので、逆にそこが利点だと考えている。

○イベントにしてもお店にしても、大規模なものが山梨にある必要はないと思う。小規模でいいからゼロではなくして欲しいという気持ち。ゼロだと東京に行かざるを得ない。

○山梨では、働いている人の割合が男性の方が多いと感じる。そういうイメージがあるだけかも知れないが、男性優位があるのかなと思ってしまう。

○アニメでも山登りのようなアクティビティでも、共通の趣味をもった人たちで交流できるような機会があるとよいと思う。

(知事(県)の主な発言)

○出会いの機会がないという話もあり、同世代の人たちが自然な形で交流する場が地域にあれば魅力的ではないか。インターカレッジのようなサークル活動があれば楽しいと思う。

○県内でいろいろな方が、共通の趣味をもった人たちと交流できるイベントがあればよいという話があった。趣味が多様化していることも踏まえて、定期的に様々なジャンルのイベントが山梨で開催できればよいのではないかな。緩やかな形の学生や社会人のサークル活動のイメージ。

○性別によって何がしか活躍の幅に制約がかかっている状態があるとしたら是正されるべきと思っている。県としては女性職員の採用や女性管理職の登用に引き続き注力する。

